

# 建築用鉄わく壁構成材の 標準モジュール呼び寸法

## Standard Nominal Size of Steel Framed Wall Component for Buildings

**1. 適用範囲** この規格は、一般建築用鉄わく壁構成材（外壁用、内壁用、外装用、内装用、耐力用、非耐力用など）の標準となるモジュール呼び寸法について規定する（例図 1～例図 10 参照）。

**備考1.** 鉄わく壁構成材とは、普通これを構成する材料の種類にかかわらず、鉄製のわくを有するものをいう。

2. 主要な面を鉄で構成される壁構成材は、とくに鉄製のわくをもたなくても適用範囲に含める。

3. 鉄わく壁構成材は、その一部分に開口部などを組みこむことができる。

4. JIS A 0005 に規定する 1 種開口部構成材を、その呼び寸法と周辺の接合部の状況によっては、鉄わく壁構成材に準じて扱うことができる（例図 1～例図 6 参照）。

### 2. 壁構成材の基準面

**2.1** 鉄わく壁構成材の基準面は、他の構成材との調整面に対して、JIS A 0004（建築のモジュール割りの原則）の 5. に規定する位置公差  $P$ 、構成材の寸法公差  $t$ 、構成材の組合せに必要な部分の寸法  $g$  を考慮して、つぎのように設定する。

(1) 水平方向の接合に関する両側の調整面に対して、それぞれ基準面を定める。

(2) 垂直方向の接合に関する上下の調整面に対して、それぞれ基準面を定める。

(3) 厚さ方向の接合に関する調整面に対して、基準面を定める。

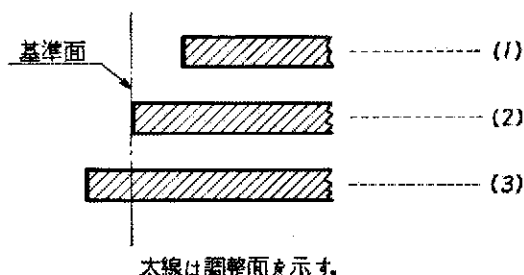
(4) 基準面と調整面の位置関係は、JIS A 0004 の 3.2 の分類により、原則として表 1 のようにする。

表 1

| 接合の方向 | JIS A 0004 の 3.2 の分類 |     |
|-------|----------------------|-----|
| 水平方向  | (1)                  | (3) |
| 垂直方向  | (1)                  | (3) |
| 厚さ方向  | (1)                  |     |

**参考1.** JIS A 0004 の 3.2 の抜粋

基準面と調整面の関係は大別すると、つぎの 3 種類がある。



**備考 5.**

- (1) 接合部の外形が接合方向に垂直な基準面に関して対称である場合は、原則として(1)とする。
  - (2) 方立、無目その他の接合補助部材のあるとき、それらを接合部に含めて扱うことができる。
  - (3) 対称でない場合は、原則として(1)または(3)のいずれかによる。この場合構成材の両側の表面のうち、基準面設定に対して選定した面を明らかにしなければならない(例図 7～例図 10 参照)。
6. 調整面は最大外形における面である。ただし、水切雨仕舞などの突出部は除外することができる(例図 1 参照)。
7. 厚さ方向の接合に関する調整面が片側だけにある場合は、基準面も片側にだけ定めてよい。

**2.2 鉄わく壁構成材における JIS A 0004 の 5.に規定する  $P$ ,  $t$ ,  $g$  の値は、原則として表 2 のように定める。**

**表 2**

| 単位 mm |      |     |
|-------|------|-----|
| $P$   | $t$  | $g$ |
| 公差 2  | 公差 4 | 5   |

この場合、モジュール呼び寸法に対する最大減少値  $D_{\max}$ , 最小減少値  $D_{\min}$  は、つぎのとおりとする。

$$D_{\max}=10\text{mm} \quad D_{\min}=6\text{mm}$$

**備考**  $g$  を 5mm 以外の寸法にする場合は、明示しなければならない。

耐力用壁構成材の場合の  $g$  は、その構法によって選定し明示する。

**参考2.** 公差の和  $r = \sqrt{2^2 + 4^2} = 4.472\text{mm}$

$$\text{ゆえに} \quad D_{\max} = 5 + 4.472 = 9.472\text{mm}$$

$$D_{\min} = 9.472 - 4 = 5.472\text{mm}$$

となるが、ここでは 2.2 に示す近似値を採用する。

**3. 寸法の表示** 鉄わく壁構成材の寸法は、つぎにより表示しなければならない。

- (1) モジュール呼び寸法 水平方向  $W$ , 垂直方向  $H$ , 厚さ方向  $T$
- (2) モジュール呼び寸法に対する最大および最小減少値 ( $D_{\max}$ ,  $D_{\min}$ )
- (3) 取付けに必要な最小寸法 ( $g$ )

**4. 標準モジュール呼び寸法** 標準モジュール呼び寸法は、表 3 のとおりとする。

表 3 建築用鉄わく壁構成材の標準モジュール呼び寸法

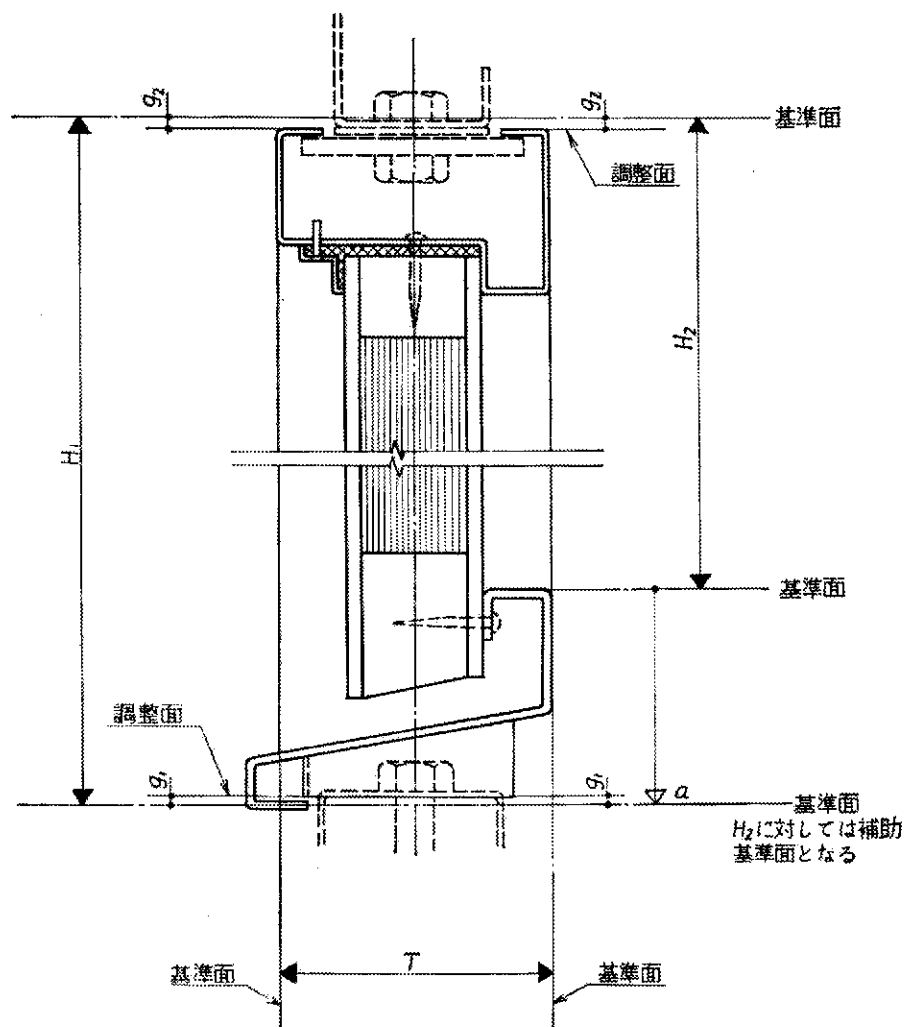
単位 mm

| ▼H \ ▼W | 2000 | 2400 | 2800 | 3200 | 3600 | 4000 | 4800 | 5600 | 6000 | 6400 | 7200 | 8000 |
|---------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 2160    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 2250    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 2400    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 2500    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 2700    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 2880    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 3000    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 3200    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 4800    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 5000    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 5600    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 6000    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 6400    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 7200    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |

▼T : 20 25 30 40 50 60  
80 100 120 150 180 200

備考 HおよびWの( )内寸法は、当分の間採用することができる。

例図 1 (外壁用)



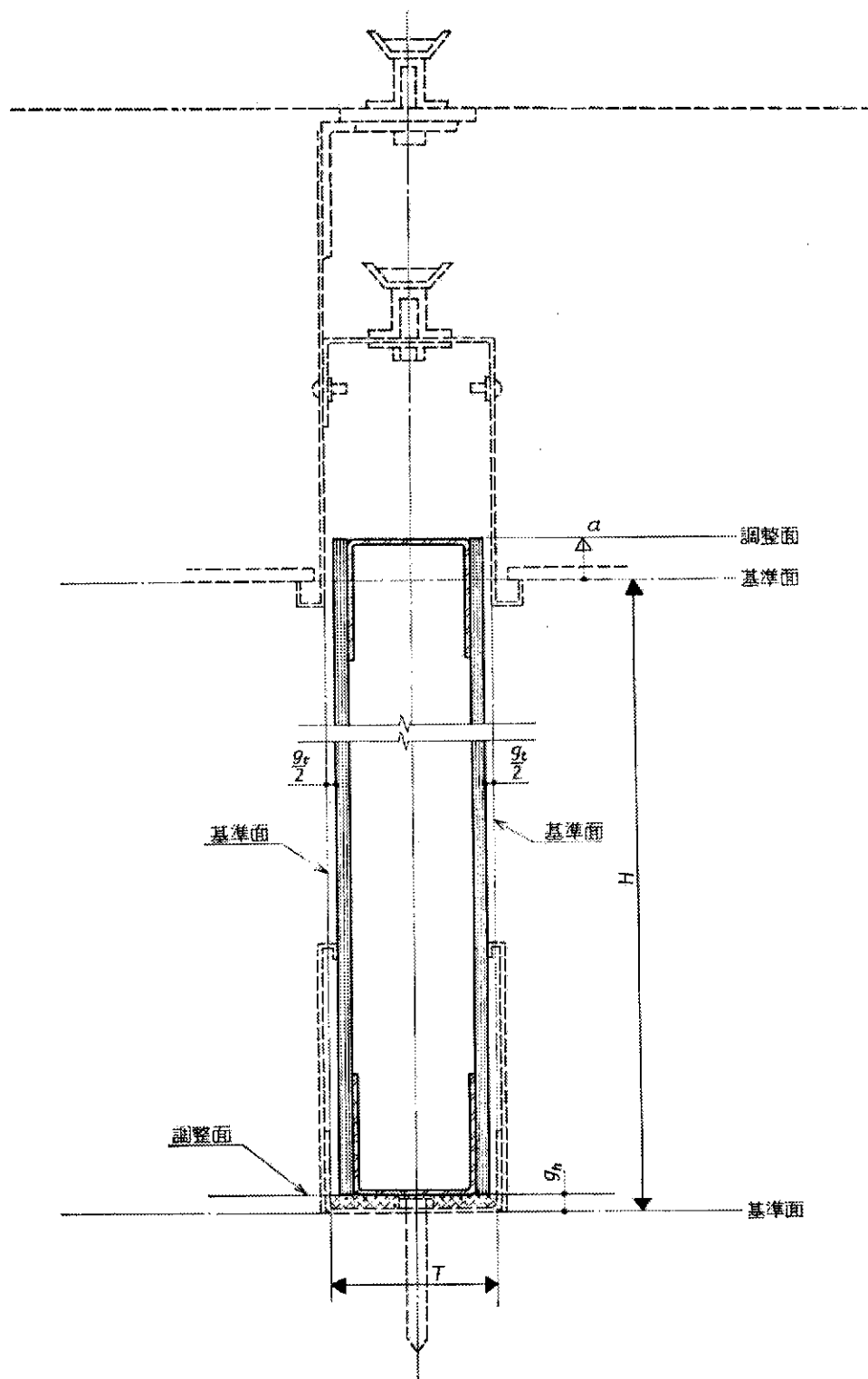
$H_1$ : 構成材の外周わくを含めて扱った場合

$H_2$ : 開口部構成材に準じて扱った場合 (JIS A 0005 の例 4 参照)

備考 1. ここで  $g$  は、必要に応じて上部、下部に配分されるので、 $g = g_1 + g_2$  となる。

2.  $H_2$  によるときは、基準面から接合に要する補助基準面までの寸法  $a$  を明示しなければならない。

例図 2 (内壁用)

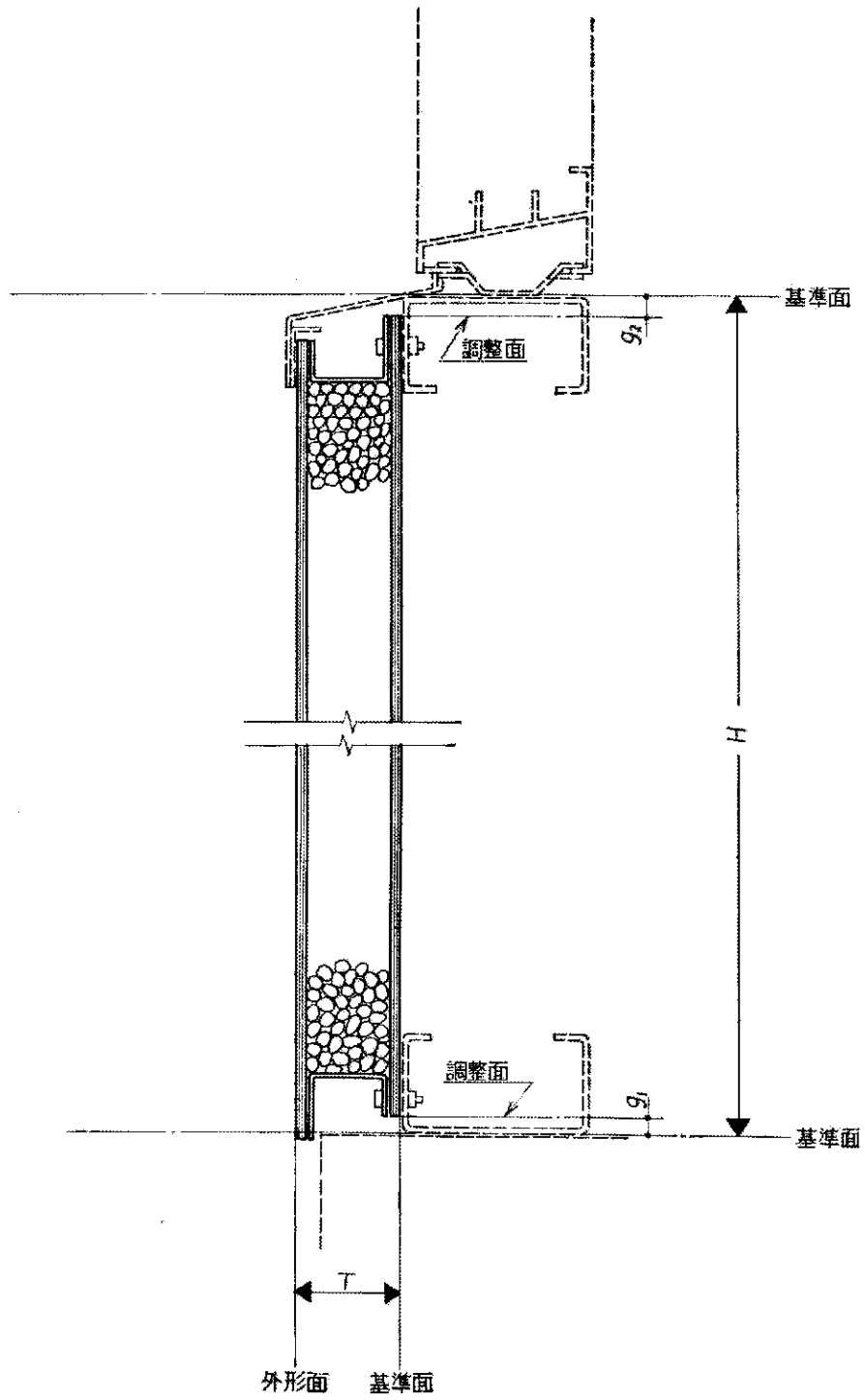


$g_h$  :  $H$  に関する取付けに必要な最小寸法

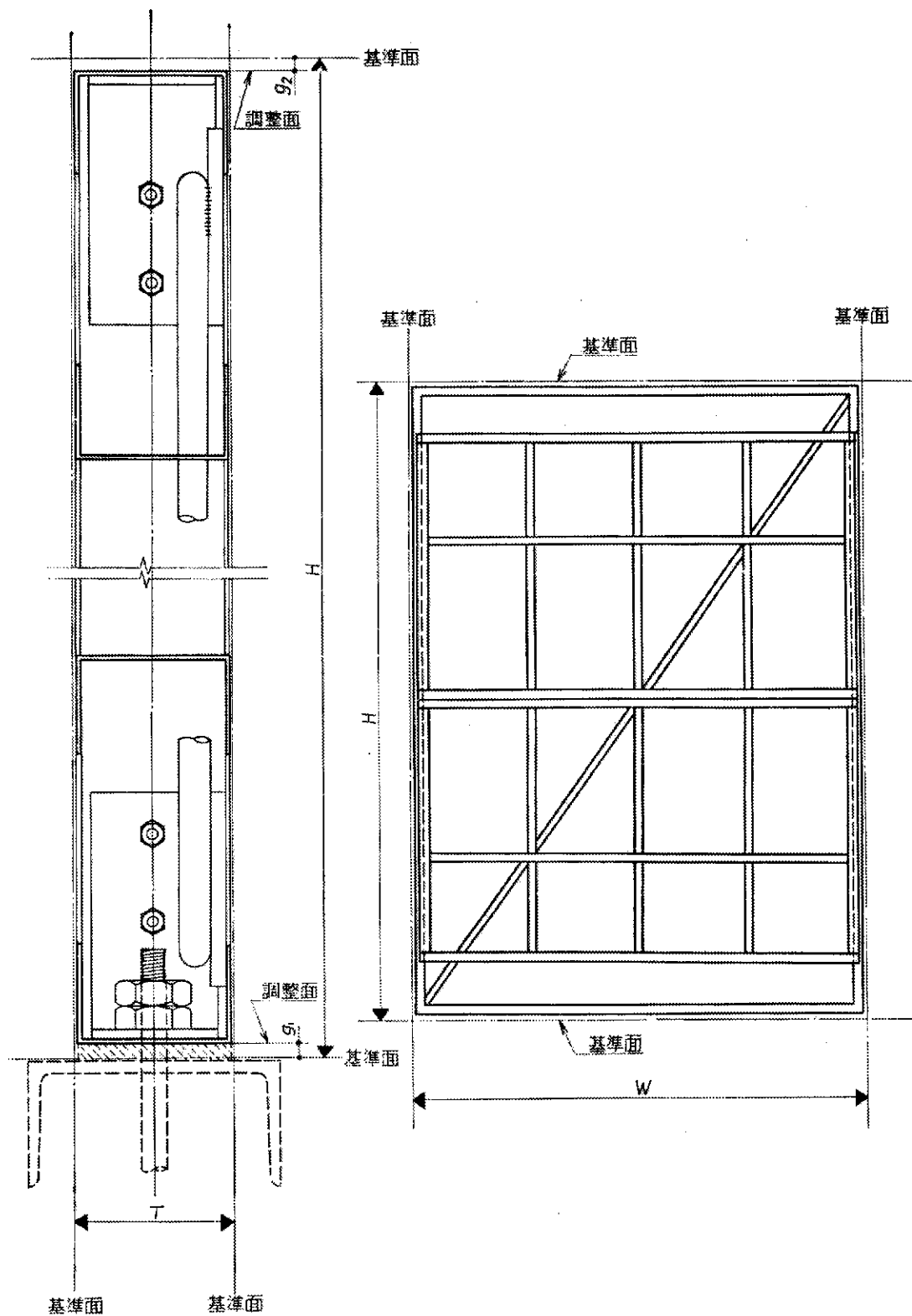
$g_t$  :  $T$  に関する取付けに必要な最小寸法

**備考** 上部で基準線から調整面までの寸法  $a$  を明示しなければならない。

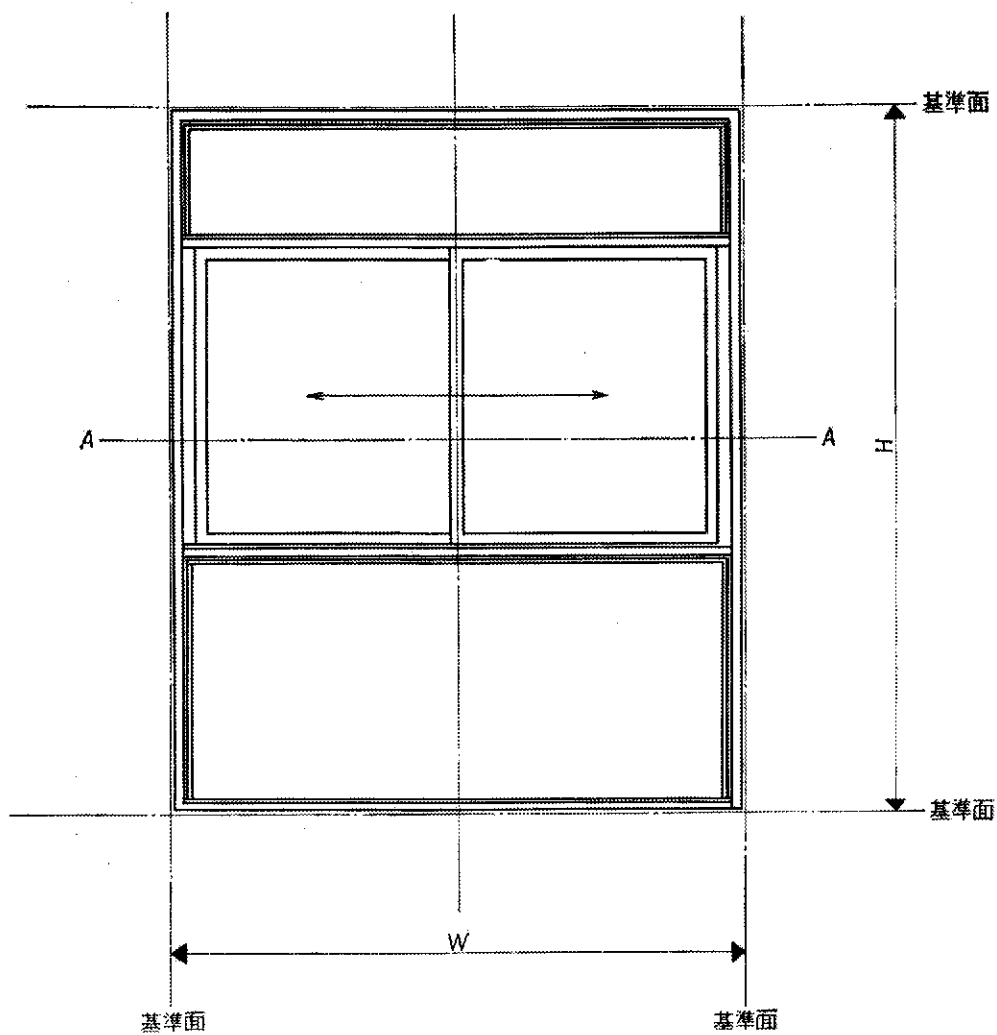
例図 3 （外装用）



例図 4 (耐力用)

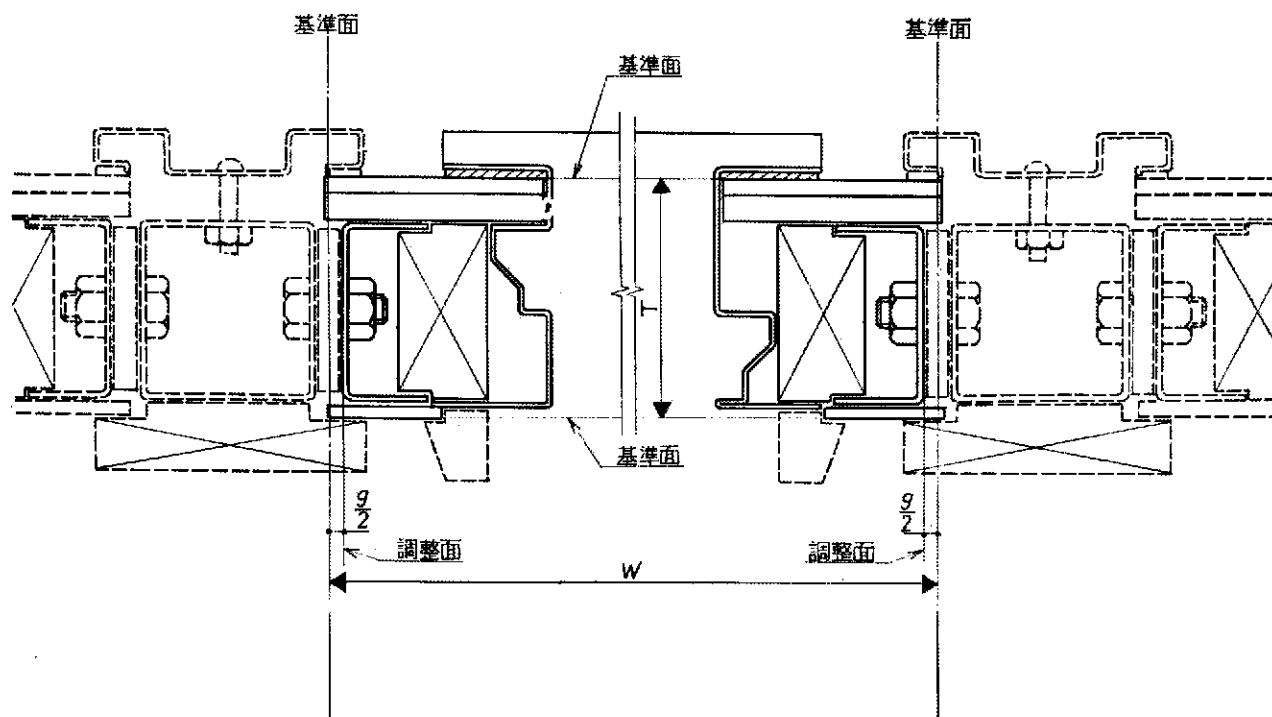


例図 5 （開口部が組みこまれた壁構成材）

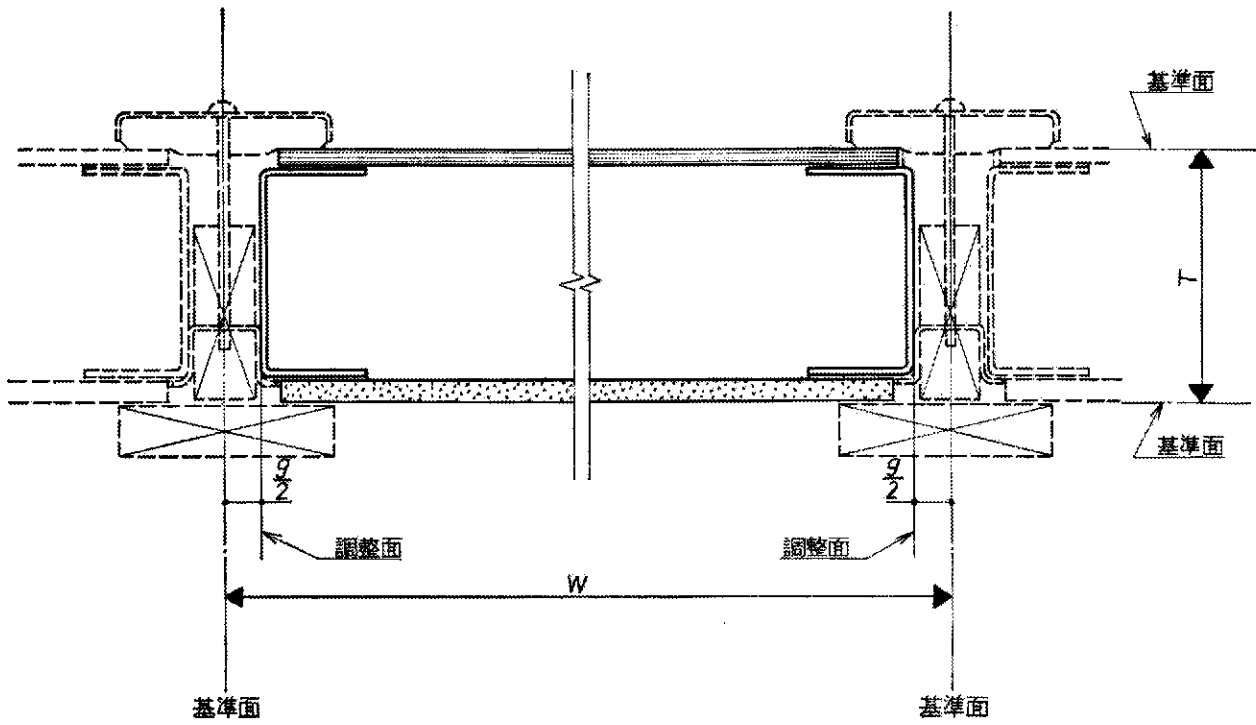


例図 6 （開口部が組みこまれた壁構成材）

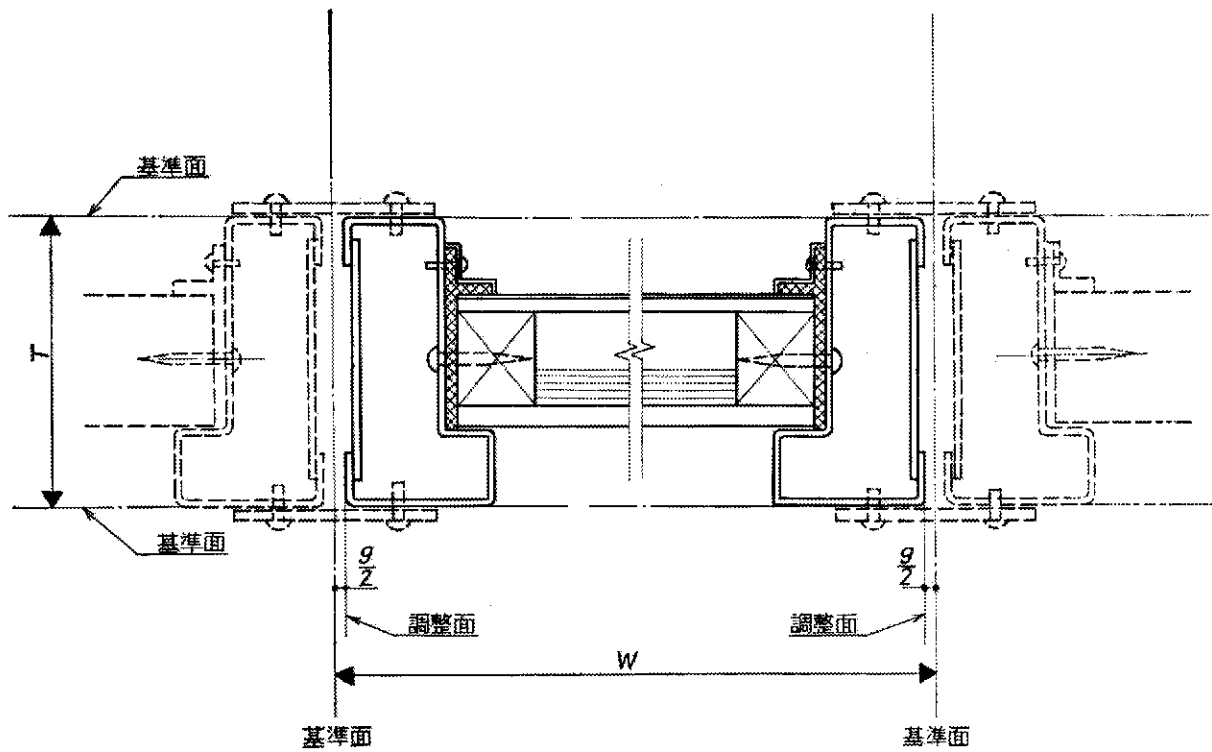
断面 AA



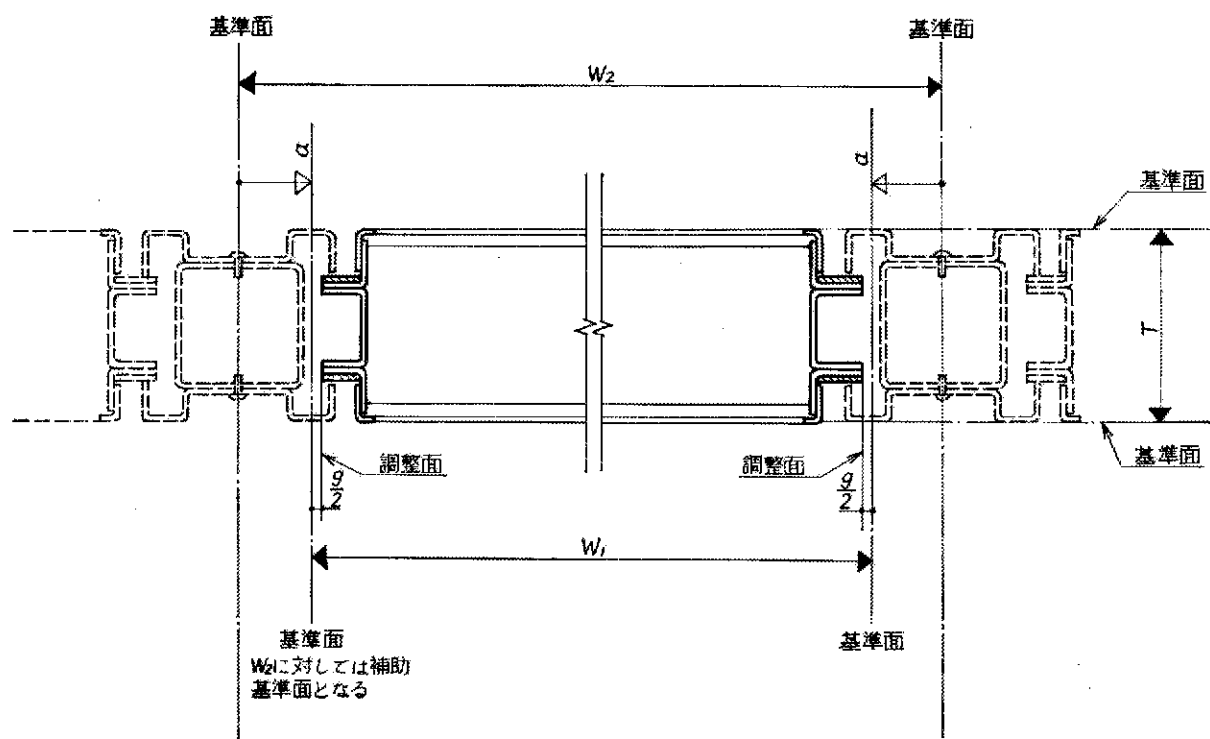
例图 7 (对称)



例图 8 (对称)



例図 9 (方立, 無目接合用補助部材)

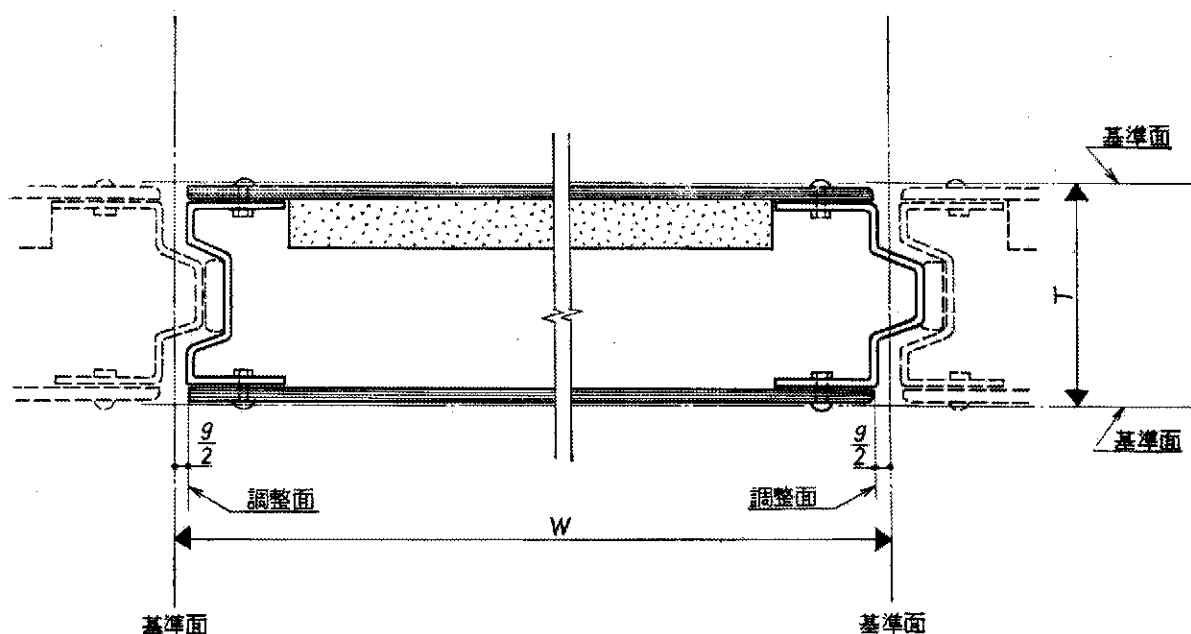


$W_1$ : 壁構成材だけに適用したとき

$W_2$ : 方立を含めて扱うとき

備考  $W_2$  によるときは, 基準面から接合に要する補助基準面までの寸法  $a$  を明示しなければならない。

例図 10 (非対称)



建築部会 軽量鉄骨製構成材の標準寸法専門委員会 構成表

|       | 氏名  |     |  |  | 所属            |
|-------|-----|-----|--|--|---------------|
| (委員長) | 池 辺 | 陽   |  |  | 東京大学生産技術研究所   |
|       | 内 田 | 祥 哉 |  |  | 東京大学工学部       |
|       | 広 瀬 | 鎌 二 |  |  | 広瀬鎌二建築設計事務所   |
|       | 寺 田 | 秀 夫 |  |  | 現代建築研究所       |
|       | 三 宅 | 敏 郎 |  |  | 日本電信電話公社建築局   |
|       | 波多野 | 一 郎 |  |  | 千葉大学工学部       |
|       | 酒 井 | 勉   |  |  | 武蔵工業大学        |
|       | 剣 持 | 吟   |  |  | 東京大学工学部       |
|       | 木 島 | 努   |  |  | 建設省営繕局        |
|       | 沢 田 | 光 英 |  |  | 日本住宅公団        |
|       | 井 上 | 隆 章 |  |  | 日本住宅公団量産試験場   |
|       | 本 間 | 正 直 |  |  | 関東地方建設局営繕部    |
|       | 後 藤 | 典 夫 |  |  | 建設省住宅局        |
|       | 樋 田 | 力   |  |  | 大成建設株式会社      |
|       | 小 島 | 久次郎 |  |  | 日本軽量鉄骨建築協会    |
|       | 平 松 | 重 郎 |  |  | 八幡エコンスチール株式会社 |
|       | 大 枝 | 千 秋 |  |  | 日本カーテンオール工業会  |
|       | 梅 垣 | 滋   |  |  | 鹿島建設株式会社      |
|       | 梶 山 | 晃   |  |  | 建設省住宅局        |
| (事務局) | 木 下 | 亨   |  |  | 工業技術院標準部      |
|       | 田 村 | 尹 行 |  |  | 工業技術院標準部材料規格課 |
|       | 藤 田 | 富 男 |  |  | 工業技術院標準部材料規格課 |